

一般質問 町政を問う

事業仕分けで住民参加の分かりやすい行政を



町長 行政評価システムをさらに推進していく

近藤 浩 議員（改革）

名		派		会	
自	公	自	公	自	公
民	明	民	明	民	明
共	共	共	共	共	共
産	産	産	産	産	産
山	山	山	山	山	山
日	日	日	日	日	日
本	本	本	本	本	本
主	主	主	主	主	主
産	産	産	産	産	産
党	党	党	党	党	党

質問文は、質問者本人が200文字以内で執筆した原文をそのまま掲載し、答弁は内容を要約して掲載しています。

質問 厳しい財政状況の中、効率的な予算執行が求められており、町では事業の見直しや廃止などは、行政評価システムの中で行われている。一方で、「町の予算がどう決まってくるのか分りにくい。」などの声も聞かれる。行政評価システムの努力も続けられているところであるが、一歩進んでシステムの透明性・客観性を高め、住民協働・住民参加のまちづくりを進めるため事業仕分けを行うべきと考えるが、町長の所見を伺うものである。
町長 地方自治では、議会が町長が施策や予算を提案し、議論して執行している。各種事業の評価は、特別委員会を含め、議会で審議されるのが基本。町では、成果重視、効率化、住民の参加、公開性の確保などを目的として、行政評価システムを取り入れた。このシステムは、人事考課システムと併せ、

各種施策の立案や、その後の施策執行管理などに効果的に活用されており、行政評価システムをさらに推進していく。
こんな質問もありました
どう見直す福祉バス。
町長 23年4月の改正を目指して、ルート、時刻表、バス停などの見直しを行っている。



近隣市で実施された事業仕分け

まちづくり基本計画について

谷 四男美 議員（住民）

町長 協働型社会の形成が、推進の力となる

質問 まちづくりには様々な目標と提案がされているがその中で以下の点について問う。
問① 町は合併しないまちづくりを選んだが、町のアイデンティティの確立と地域力をどう推進するのか。
町長 地域と町が連携して効果を発揮し、その役割と責任を分担する協働型社会の形成こそが、推進の力となる。



殿ヶ谷地区に建設中の新規認可保育園

問② 魅力ある温かい瑞穂は同時に多文化共生のまちづくりとつながる。そこで、外国人とのコミュニケーションを高める方策は。
町長 瑞穂・横田交流協会や姉妹都市委員会との連携を継続し、今後はアジアの都市や町居住の方も交え、国際的視野を広め、多文化共生の風土づくりを推進する。
問③ 新郷土資料館建設のコンセプトは何か。
町長 郷土資料館の在り方研究会で、検討が進められている。
問④ 児童福祉の分野での多様な保育ニーズに対応する施策は何か。
町長 4月に新規の認可保育園と認定こども園が開設予定。待機児対策の一環として期待している。

「新しい公共」を、町はどのように進めていくのか

齋藤 成宏 議員（民主）

町長 住民や企業と一体となった地域づくりを目指す



駅伝競走大会の準備をする体育協会の方々

質問 「新しい公共」は、これまで役所だけの仕事と思われていた「公共」を、広く多くの住民が担う、新たな社会づくりの提案である。全ての人が社会に参加し、ひとを支え、ともに生きる社会。そのような社会の実現をめざして、住民・事業者・行政の協働によって「公共」を進めていくことが大切である。そこで町長に次の2点を伺う。
問① 現時点での町の認識は。
町長 いくつもの協働の相手を対象として、

る点で、これまでと異なる点もあるが、昔から地域全体が共同体として地域づくりを担ってきた、元々の姿を取り戻す作業であると認識している。
問② 具体的にどのような事業を進めていくことになるのか。
町長 ボランティアを主体とした活動に対する必要物品提供などの支援と、NPO団体や民間企業などに事業委託をする。

住民や企業と一体となった活気に満ちたまちづくりの地域づくりを目指す。